

環境省・オフセット・クレジット認証運営委員会
(事務局:気候変動対策認証センター)御中

平成 22 年 10 月 27 日

オフセット・クレジット(J-VER)プロジェクト登録依頼書

オフセット・クレジット(J-VER)制度における妥当性確認が終了しましたので、プロジェクト登録を依頼します。

プロジェクト名 ¹			
東京大学千葉演習林間伐推進プロジェクト ～東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト～			
【依頼者】 プロジェクト代表事業者			
事業者名(フリガナ)	国立大学法人 東京大学(コクリツダイガクホウジン トウキョウダイガク)	印	
住所	東京都文京区本郷 7-3-1		
代表者氏名	濱田純一	代表者役職	総長
担当者氏名	迫田一昭	担当者 所属部署・役職	TSCP 室 室長補佐
担当者 E-mail	sakoda.kazuaki@mail.u-tokyo.ac.jp	担当者電話番号	03-5841-0500
プロジェクト事業者・プロジェクト参加者			
プロジェクト事業者名	東京大学 大学院農学生命科学研究科 附属演習林 千葉演習林		
プロジェクト参加者名			
オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者			
事業者名(フリガナ)	国立大学法人 東京大学(コクリツダイガクホウジン トウキョウダイガク)		
	以下のうち当てはまる項目に☑ <input checked="" type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト代表事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト参加者である。 <input type="checkbox"/> その他()である。		

¹ プロジェクト名は、抽象的な表現を避け、「〇〇県△△事業者による□□（排出削減技術）を用いた温室効果ガス排出削減事業」のように、先にプロジェクト実施場所やプロジェクト事業者名を入れる等により、第三者に事業内容が伝わりやすいものとしてください。但し、事業の愛称やキャッチコピーをサブタイトルとしてつけていただくことは可能です。

プロジェクト情報 ²	
プロジェクト概要	<p>(プロジェクトの目的や具体的な内容を簡潔に記載すること。)</p> <p>(目的) 大学演習林の間伐事業により CO2 クレジットを獲得し、大学全体の CO2 排出量をオフセットすることである。</p> <p>(内容) プロジェクト事業者である東京大学千葉演習林が、2007 年～2012 年度に間伐を実施した林分における、2008～2012 年度の CO2 吸収量をクレジットとして申請するものである。2007～2009 年度については間伐を実施済みで、面積、吸収量等は実測にもとづく値を申請する。2010～2012 年度については森林施業計画の間伐計画に沿って暫定値を申請するもので、面積は GIS による計算、吸収量は地位を仮定した計算にそれぞれもとづく。</p> <p>(適格性基準との整合) 対象地は森林法第 5 条に定める森林で、森林施業計画対象林である。モニタリング・検証にあたっては森林施業計画全体の伐採届・造林届を提出し、間伐は市町村森林整備計画に定められた方法に従う。</p> <p>(法令遵守状況) 森林・林業基本法、森林法、及び森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法(間伐等促進法)に該当するが遵守している。</p> <p>(採用技術) 面積測量機(Hemisphere 他)、樹高測定器(Haglof)、胸高直径測定器(Haglof)を使用し、間伐予定地の林分面積計算は ESRI 社製 ArcGIS9.2 を使用。</p> <p>(モニタリング方法) J-VER制度モニタリング方法ガイドラインのモニタリングパターンに基づき、活動量は、各モニタリングポイントに応じ、森林GISによる計算及び実測を行うことにより特定する。拡大係数は、「京都議定書3条3及び4の下でのLULUCF活動の補足情報に関する報告」で示された樹種別の拡大係数、枝根率、容積密度を使用する。収穫予想表は、千葉県収穫予想表のスギ(実生)とヒノキを使用する。また、ガイドラインに従いモニタリングプロットを設置し、的確にモニタリングを実施する。</p> <p>(GHG 算定式の方法論への準拠性) ガイドラインに全て準拠した算定式を採用している。</p> <p>(モニタリング体制) 東京大学林長を責任者として、データ収集・管理は東京大学千葉演習林組織が担当するが、データ収集の一を部森林組合が担当し、データ編集・解析、クレジット計算については林長補佐がプロジェクト担当者として直接担当しまとめる。</p> <p>(QA/QC 体制) 品質保証及び品質管理については東京大学千葉演習林組織が教育・研究の側面からも日常業務としての確に対応している。また内部監査的に大学本部 TSCP 室が定期的に確認をする。</p>

² プロジェクト情報は、プロジェクトの目的・内容の他、適格性基準との整合性・法令遵守状況・採用技術・モニタリング方法・GHG 算定式の方法論への準拠性・モニタリング体制・QA/QC 体制等に関することを 2 ページ以内で記述してください。

プロジェクト実施場所	(プロジェクト実施場所が複数ある場合は、全ての住所を表形式等で記述する。) 千葉演習林事務所： 千葉県鴨川市天津 770 間伐実施地・予定地： 鴨川市清澄字東間沢 492～495 鴨川市清澄字後沢 鴨川市清澄字向峰絹碓石 506-1 鴨川市四方木字仁ノ沢 鴨川市四方木字檜尾 1621 鴨川市四方木字真根沢 君津市折木沢字相ノ沢 1542 君津市折木沢字小屋ノ沢 1540 君津市折木沢字東ノ沢 1545 君津市黄和田畑字千石代 1375-22 鴨川市四方木字平塚 707 鴨川市四方木字真根沢 713-1～3 鴨川市清澄字切通南沢 387-1 鴨川市大字四方木平塚 707 君津市黄和田畑字前沢 1435, 1441, 1442-2-3 君津市折木沢字伊豆貫 1541						
プロジェクト期間	2007 年 4 月 1 日 ～2013 年 3 月 31 日 (6 年 0 ヶ月)						
クレジット期間	2008 年 4 月 1 日 ～2013 年 3 月 31 日						
プロジェクト計画開始届提出日	2010年8月 2日						
妥当性確認終了日	2010年10月27日						
想定削減・吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	145	251	364	477	557	1,794
適用実施規則	オフセット・クレジット(J-VER)制度実施規則 ver. 2.1						
適用モニタリング方法ガイドライン	オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドライン (森林管理 プロジェクト用) ver. 1.6						
適用方法論	方法論番号	JRAM 001 ver. 3.0					
	方法論名称	森林経営活動による CO2 吸収量の増大(間伐促進型プロジェクト)に関する方法論					
ダブルカウントの防止措置							
ダブルカウントの防止の措置を講ずる事業者	(プロジェクト代表事業者と同一の場合は記入不要)						印
公的な報告・公表制度(判明している公的的制度)	大学全体の CO2 削減のために使用し売却はしない予定である。仮に売却することになったとしても、第 1 種エネルギー管理指定工場としての定期報告書(温対法報告兼ねる)において、適正に記載報告・公表する。						

自主的な報告・公表 対象（対象となるホー ムページ、環境報告 書等）	環境報告書、ホームページ等
備考欄	

以上